

生駒市医療介護連携ネットワーク協議会
第3回在宅医療介護推進部会 会議録

開催日時	平成28年11月7日（月）午後2時00分から午後3時45分
開催場所	生駒メディカルセンター 3階研修室
出席者 （委員）	有山委員、山口委員、嶋司委員、片岡委員、中溝委員、高山委員、世古委員、吹留委員、林委員、工藤委員、井上委員、辻村委員、加藤委員、田中委員
欠席者	倉本委員、吉藤委員、橋本委員
事務局	影林福祉健康部長、増田福祉健康部次長、島岡高齢施策課長、石田病院事業推進課長、近藤健康課長、森田健康課課長補佐、(株)地域計画建築研究所 大河内
生駒市医師会	中畑事務長、土橋事務局次長
傍聴	2名
案件	(1) 資源集調査票に関する各項目の確認および各事業所へ送付する文書について (2) 意見交換（グループワーク） (3) その他
資料	資料1 資源集調査票 資料2 各事業所へ送付する資源集調査票の文書
議 事 の 経 過	
発言者	発言内容
部会長	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料確認 <p>2 案件</p> <p>(1) 資源集調査票に関する各項目の確認および各事業所へ送付する文書について</p> <p>それでは、本日もよろしくお願いたします。先日（10月13日）の視察研修の際は、ご参加いただき誠にありがとうございました。皆様のご協力のもと、無事に終了し、視察先でお聞きした事業で、生駒市でも活用が可能と思われる事項については参考にさせていただき、今後の効果的な事業展開に活かしていくことが必要です。今後ともよろしくお願いたします。</p> <p>それでは、案件（1）の「資源集に関する各項目の確認および各事業所へ送付する書類について」、の資料1について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から資料1について説明
部会長	<p>事務局から説明がありましたが、皆様それぞれの事業所について、調査する項目として、この項目でいいかどうか、ご意見等ございますか。</p>

部会長	<p>各事業所にたくさんの項目がありまして、調査・集計にはご協力が必要かと思いますが、完成したら非常に充実した資源集になると思います。</p> <p>では、特にご意見が無いようですので、この調査票で調査に入りたいと思います。続きまして、資料2について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から資料2について説明
部会長	<p>資源集の調査に関する依頼の文章と記入例について説明をいただきました。こちらの様式で依頼をしていきたいと思いますが、何かご意見等ございますか。</p>
委員	<p>いまお話しされた中では、生駒市内の在宅医療、介護施設の情報ということですが、生駒市民の方が、生駒市内の施設だけを使っているというわけではないので、例えば、奈良市や四條畷市等にあるような事業所は含めないということでしょうか。</p>
部会長	<p>市民の方の利便性を考えると、範囲は広げた方が良いと思いますが、今の段階で市外まで広げるとなると、どこまで広げるかという問題もありますし、今後、各市町村でも同様の取組が進んでいくと思われまますので、ひとまず今回は生駒市内だけを対象にするということで、私は考えておりますが、事務局の方からは何かありますか。</p>
事務局	<p>事務局といたしましても、部会長がおっしゃったように、まずは生駒市内の事業所だけということで想定しております。</p>
部会長	<p>いかがでしょうか。</p>
委員	<p>納得はできないですけれども。</p>
部会長	<p>どのあたりを広げた方が良いというご意見でしょうか。</p>
委員	<p>例えば私の法人ですと、生駒市と四條畷市の境にあるんですが、ご利用されている方の7割が生駒市民の方ということで、そのあたりの情報も載せていただいた方がありがたいかなというのが、私どもの法人の意見です。</p>
部会長	<p>そういうご意見があったということは、胸に留めておきまして、まずは生駒市内でこの資源集を作成し、それを活用して、その結果について、また皆様からご意見をいただいて、今後の検討課題とさせていただきたいと思いますので、今回はご了承ください。申し訳ございません。</p> <p>他にご意見はないでしょうか。それでは、この依頼文で各事業所に依頼していきたいと思いますが、日程的にはどうなっていますか。</p>
事務局	<p>12月にこの調査票を発送しまして、できれば12月中に回収したいと考えております。</p>
部会長	<p>では、12月には依頼文が各事業所宛てに発送されると思います。皆様のところへ各事業所から問い合わせ等があった場合は、記入して出してくださいとお伝えただけならと思います。それでは、案件(1)についてはこれで終わります。</p> <p>次に、案件(2)の「意見交換」について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から意見交換のやり方について説明

委員	<p>質問ですが、「第3回在宅医療介護推進部会 取組提案のまとめ」の「1情報共有」の「(3) 在宅生活を支える連携が弱い」というところで、「地域ケア会議における連携強化」と書いてありますが、これは今までのグループワークでそういうご意見があったということですか。在宅生活を支える連携が弱いというと、多職種連携の情報共有というようなイメージで、それが地域ケア会議とサービス担当者会議と、多職種連携研修とどう区別されているのかが分からなかったんですが。</p>
事務局	<p>ここで出ていたのは、地域ケア会議での定期開催のプログラムとか、かわら版を作って情報共有しようとか、医師や薬剤師の方の参加の工夫をしていこうという意見です。</p>
委員	<p>地域ケア会議ではなくて、医療介護の連携をしている多職種の従事者の連携の強化という解釈でいいでしょうか。それから、その次の、「地域包括支援センターの事務支援」についても、事務支援というのは具体的に何なのか、私たちがやっている業務の支援をされるのか、表現の仕方だと思うんですが。</p>
事務局	<p>整理の仕方が悪かったようで、申し訳ございません。地域ケア会議は地域包括支援センターでされているので、ここでは医療と介護の連携に係る会議というふうに改めるようにします。</p> <p>(意見交換 約60分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換記録参照
部会長	<p>長時間にわたり、お疲れ様でした。十分な意見交換ができましたでしょうか。2つの班のまとめを聞きますと、どちらの班も同じところが重要だとお考えで、共通意見になっているかと思えます。今日の内容を整理して次に繋げていきたいと思えます。他に意見等はございませんか。後でも結構ですので、事務局まで連絡していただけたらと思えます。</p> <p>最後に、案件(3)「その他」についてですが、委員の皆様から、何かございますか。では、無いようですので、事務局からは何かありますか。</p>
事務局	<p>資源集につきまして、医師会の会員様分については、医師会事務局でまとめて送付・回収をしていただけるというお話を頂戴しております。調査期間が短く、速やかに送付・回収を行うために、その他の事業所につきましても、送付・回収にご協力いただける事業所がございましたら、是非ともお願いしたいと思えますが、いかがでしょうか。後ほどでも結構ですので、事務局までご連絡いただけましたらと思えます。</p> <p>資源集につきましては、平成28年度は各事業所向けに医師会の事業として冊子を作成し、平成29年度については市民向けのホームページに掲載する予定です。次の第4回の部会では、調査票の進行状況に応じて、ご報告させていただきます。今後の予定では、年度末の作成に向けて、12月に調査票の送付・返送、1月以降に集計という予定となっています。</p> <p>次に、次回の部会の開催日ですが、平成29年2月13日(月)か2月20日(月)の午後2時からを予定しておりますが、皆様のご都合はいかがでしょうか。どちらでもよろしければ、2月13日(月)とさせていただきます。</p>
部会長	<p>ほかに、何かございませんか。ないようでしたら、これで第3回在宅医療介護推進部会を閉会いたします。どうも、ありがとうございました。</p>

第3回在宅医療介護推進部会 H28.11.7

医療介護連携について意見交換（グループワーク） 記録

1 意見交換の概要

(1) 意見交換の目的

- これまでに整理した課題ごとの取組提案について、来年度から行う優先度が高い取組について絞り込みました。
- 優先度が高い取組提案について、誰がどのように行っていくのか、話し合いました。

(2) 日時、場所

日時 平成28(2016)年11月7日(月)午後2:00~4:00

場所 生駒メディカルセンター

(3) 参加者

医療福祉関係者 15名

2 第3回意見交換のテーマ

- 来年度から行う優先度が高い取組の絞り込み
- 実現に向けた役割分担

3 来年度から行う優先度が高い取組

検討項目	主な課題	取組提案 (太字:来年度から行う優先度が高い取組)
1 情報共有	(1) 入退院時連携が十分ではない	①入退院時カンファレンスの指針、マニュアル作成
	(2) サービス担当者会議における連携が弱い	②サービス担当者会議における連携強化
	(3) 在宅生活を支える連携が弱い	③医療介護職の連携強化
	(4) 施設、サービス情報の共有が十分ではない	④医療介護連携資源集の作成
2 相談	中心組織、相談対応のしくみづくり	⑤在宅医療介護連携支援センター(仮)の開設検討
3 連携体制	(1) 情報交換のしくみづくり	⑥医療介護を支える連携体制づくり
	(2) 連携体制づくり	
4 研修、人材育成	研修、人材育成	⑦合同研修、テーマ別研修、職種別研修の実施
5 普及啓発	普及啓発	⑧在宅医療、看取りパンフレットの作成
		⑨広報いこまちを活用したPR
		⑩在宅医療、看取り市民フォーラムの開催
		⑪身近な地域向け講演会

在宅医療介護推進部会 取組提案のまとめ（●重点取組は5名以上の部会員が、次年度以降取り組むべきとしたもの）

検討項目	主な課題	取組提案			
		提案のタイトル	内容	重点取組	今後の検討事項
1 情報共有	(1) 入退院時連携が十分ではない	①入退院時カンファレンスの指針、マニュアル作成	○退院調整ルールづくり ・連携の流れ図、情報共有ルール、フローの検討。 ・退院半月前にカンファレンスを実施する。 ・退院時共同指導加算、退院退所加算を実施する。 ○情報共有シートの作成 ・提供方法の統一と内容の均質化を図る。 ・医療・介護連携に必要な情報を記載する共通書式（「患者情報カード」「情報共有シート」）を作成する。お薬手帳の活用。 ○会議運営の工夫 ・医療側（相談員）、介護側（ケアマネ）、窓口を明確にして連携を深める。 ・事前情報を提供、共有の上で会議を開催する。 ・欠席者に情報発信を行う。 ・医療、介護が参加しやすい工夫（かかりつけ医の診療時間を避けるなど）、現場にあわせた定例化を図る。	● (12)	部会を設けてルールづくりの検討 ・入退院時の情報共有のための最低限の流れを示したマニュアルをつくっておく。 ・行政が検討のための事務局となって、関係者に声をかけてもらえれば良い。 ・退院調整ルールづくりは中和圏域版と高島市版をたたき台にして検討を加える。 ・各プロセスにおける連携ポイントを洗い出す。 ・ケアマネなど、プロセスにおけるキーマンを明確にする。誰が何をするのかを指針として示す。 ・入院時、退院時に共有できるようにする。 情報共有書式の工夫 ・既存情報共有シートとして、病院が作成している書式がある。たたき台を元に、介護側・医療側が必要としている情報を盛り込む。
	(2) サービス担当者会議における連携が弱い	②サービス担当者会議における連携強化	○在宅を支える情報共有シートの作成 ・「在宅退院情報確認書」「介護サマリー」をもとに、情報共有書式を統一する。 ・入退院時の経過や方向性が把握できる、地域単位で統一した書式を運用する。 ・「居宅介護指示書」を活用して医師とケアマネの連携を図る。 ○在宅を支える3者連携のルールづくり ・①病院、②家族、③介護連携のあり方を示す。 ・要介護者と支援者の関係を表すエコマップを作成し、支援者の漏れをなくす。 ・ケアマネが医師に相談しやすいようにケアマネタイムを作成する。 ○会議運営の工夫 ・医療、介護が参加しやすい工夫（かかりつけ医の診療時間を避けるなど）、現場にあわせた定例化を図る。	● (7)	情報共有書式の統一 ・書式を統一する。 ・特に、身体状況や環境が変わった時に書式が必要になる。

在宅医療介護推進部会 取組提案のまとめ（●重点取組は5名以上の部会員が、次年度以降取り組むべきとしたもの）

検討項目	主な課題	取組提案			
		提案のタイトル	内容	重点取組	今後の検討事項
	(3) 在宅生活を支える連携が弱い	③医療介護職の連携強化	○連携を目的とした取組 <ul style="list-style-type: none"> ・定期開催のプログラムを組んで、関係機関の連携を強める。①勉強会、②意見交換会を開催し、顔が見える関係づくりを図る。 ・多職種連携研修の定期開催、かわら版等の発行に取り組む。 ・定例開催、開催時間の工夫により医師や薬剤師が参加しやすくする。 	(1)	
	(4) 施設、サービス情報の共有が十分ではない	④医療介護連携資源集の作成	○資源集の作成・活用 <ul style="list-style-type: none"> ・生駒市内の資源を把握する。定期的に更新できる体制とする。 ・それぞれの資源の窓口や Key になる人材を把握する。 ・ITC と回覧板などのアナログツールを使い分ける。 ○情報共有の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・医療職、介護職向けに資源の学習会を行う。 		
2 相談	中心組織、相談対応のしくみづくり	⑤在宅医療介護連携支援センター(仮)の開設検討	○医療介護連携の総合相談機関の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・医療資源、介護資源をトータルコーディネートできる総合相談機関をつくる。在宅医療・介護連携に係る相談窓口を設置する。 ・総合相談機関に医療介護関係者の連携を支援するコーディネーターを配置する。 ・市や社協に連携担当者を配置する。 	● (7)	想定される担い手候補 <ul style="list-style-type: none"> ・医療、介護に精通しており中立的な組織。 ・地域包括支援センター、医師会、生駒市社会福祉協議会等が考えられる。 ・医師会と市が、救急診療、訪問看護、地域包括支援センターを運営しているメディカルセンターが適任ではないか。 センター機能の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ワンストップで全てのことに対応するのか、事業の枠組みを定めるのか、部会を設けてセンターの内容について検討してはどうか。
3 連携体制	(1) 情報交換のしくみづくり	⑥医療介護を支える連携体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携の事務局や情報共有のルールづくり、ツール更新の体制が必要になる。 	(1)	
	(2) 連携体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・医療介護連携ネットワーク協議会において連携方針を検討する、協議体を継続して事務局機能を確保する。 		

在宅医療介護推進部会 取組提案のまとめ (●重点取組は5名以上の部会員が、次年度以降取り組むべきとしたもの)

検討項目	主な課題	取組提案		重点取組	今後の検討事項
		提案のタイトル	内容		
4 研修、人材育成	研修、人材育成	⑦合同研修、テーマ別研修、職種別研修の実施	<p>○連携を促進する合同研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携（医者、ケアマネ、訪看、事業所、ヘルパー、介護士を含め）の検討会や研修会 ・お互いの状況や役割の理解、チームで支援体制を考える ・医療、介護両分野の合同研修の機会をつくる <p>○テーマ別研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看取りに関わった利用者さんの事例検討会 <p>○専門職種別の人材研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護人材確保について先進的な取組の情報収集を行う ・訪問看護講師によるヘルパーさんへの研修 ・病院看護師研修（県の看護協会研修への参加） ・歯科訪問診療の研修 ・在宅医の養成研修 ・総合相談窓口コーディネーター人材養成研修 	● (9)	<p>求められている研修テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALS（筋萎縮性側索硬化症）などの神経難病について ・精神疾患について ・独居の栄養コントロール法について ・歯科、嚥下について <p>自主的な運営の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各職種が持ち回りで研修を運営する。他職種のことを理解しながら合同研修会を行ったり、他職種向けの研修会を企画する。 ・研修だけでなく、交流（遊び）の要素を加えるなど続けていきやすい工夫をする。 ・行政には場所の提供などの協力をして欲しい。
5 普及啓発	普及啓発	⑧在宅医療、看取りパンフレットの作成	<p>○啓発パンフレットの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療、介護分野の普及啓発事業を一体的に実施する。 ・在宅医療、看取りに係るパンフレットを作成し、窓口や医療機関などで配布する。 	● (9)	<p>全市的な広報を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報で在宅医療、看取りについて広報を行う。 ・在宅医療でできることを紹介して、家族の不安を取り除く。 <p>パンフレットの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看取りの準備、心構えについて紹介。 ・口から食べれなくなった時、胃ろうなどの理解。 ・在宅看取りに対応できる医師や福祉施設を紹介する（資源集）。 ・福祉施設では「ターミナル意向うかがい書」によって家族の意思を確認している。 <p>事例を集めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四日市市、津市などが看取りのパンフレットを作成している。
		⑨広報いこまちを活用したPR	<p>○広報誌を活用したPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療、福祉連携について広報誌に特集記事を掲載する。往診、訪看、訪介、デイ、家族、当事者等の生活事例を紹介する。 	(2)	
		⑩在宅医療、看取り市民フォーラムの開催	<p>○市民フォーラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報（市町村）、できれば家族も使えるアナログツールを活用する。 	(1)	
		⑪身近な地域向け講演会	<p>○身近な学習の場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり出前トーク（公開講座、寸劇）や地域住民とのシンポジウム、老人クラブ、町内会等の会合に出向き小規模な講演会を行う。 	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療福祉施設が地域で行っている学習会について連携を図る。 ・医療福祉連携とあわせて、地域密着型サービスの理解を拡げる。
		⑫医療のためのエンディングノート作成	<p>○啓発につながるエンディングノート作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民へエンディングノート配布 		